

論文審査の結果の要旨

氏名：柳 澤 正 彦

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：免疫複合体刺激による培養ヒト滑膜マスト細胞からの TNF- α と IL-8 の産生に対する
IL-33 の影響に関する検討

審査委員：（主査） 教授 武 井 正 美

（副査） 教授 長 岡 正 宏 教授 早 川 智

教授 照 井 正

マスト細胞の当該研究室伝統的手法による解析を滑膜マスト細胞に応用した論文で解析方法は確立されたもので研究が行われた。この系を用いて TH2 サイトカイン誘導能をもつ IL33 の滑膜マスト細胞に与える直接的な影響を検討した論文である。

関節リウマチ（RA）、変形性関節症関節（OA）滑膜から培養滑膜マスト細胞を従来の方法で樹立した。培養滑膜マスト細胞と患者滑膜組織凍結標本のマスト細胞の IL33 受容体 ST2 の発現を検討したが、両者において発現に差は認めなかった。IL33 の刺激で変性 IgG（免疫複合体：IC）による滑膜培養マスト細胞培養液中の遊離ヒスタミン産生を測定することにより、脱顆粒反応を検討した。その結果、マスト細胞脱顆粒反応は IL33 の影響を受けなかった。IC との共刺激では IL-8、TNF α の産生は IC 単独刺激に比し相乗効果があり 50 倍以上の産生を促した。

RA と OA 培養滑膜マスト細胞の IL33 に対する炎症性サイトカイン産生に差は認めなかったが、免疫複合体と IL33 が過剰に存在し得る状況では、滑膜マスト細胞が RA 滑膜炎の病態に関与している可能性を初めて示唆した論文である。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 27 年 2 月 18 日